

『土芥寇讎記』の基礎的研究

2004（平成16）年4月

研究代表者 若尾政希
（一橋大学大学院社会学研究科助教授）

はしがき

若尾 政希

これまで近世史思想史研究において、一流の学者（いわゆる頂点的思想家）を対象とした思想家研究や、民衆思想史研究は行われてきたが、幕藩領主の思想史的研究はほとんど行われてこなかった。確かに、幕藩領主の支配思想を抽出した画期的な研究に、深谷克己氏・宮沢誠一氏らの「仁政イデオロギー」論があった。

しかしそれは、支配思想が民衆思想を強く規定し呪縛したという視角から、支配思想にアプローチしたものであり、さらに深めて、幕藩領主の意識・思想の歴史的位置づけを探るといふ方向には研究は進まなかった。しかしながら近世の国家や社会のありようを解明しようとするならば、当然、支配層の中核をなした幕藩領主の意識・思想がどのような歴史的特質をもつのが、中心的な課題として問われねばならない。従来、近世史研究において、幕藩領主の意識・思想を真正面から取り上げ、その歴史的特質や地域・時期による変質等々を明らかにするような研究は行われなかった。このような問題関心から、私は幕藩領主の思想史的研究を立ち上げるべく研究を行っており、特に彼らの基本的素養である軍書に着目し、その思想史的研究に着手している。このような作業の途中で出会ったのが、『土芥寇讎記』である。

『土芥寇讎記』とは、元禄三年（一六九〇）段階の全国の大名二四三名について書き上げたもので、各大名について、家系・家族、

略歴、居城（陣屋）、領内の様子、支配の状況、主な家老、及び

大名の人柄・行跡・評判などを列挙し、論評を加えた書物である。全四三巻のこの史料（現在東京大学史料編纂所に所蔵）は、金井圓氏が一九六七年に翻刻して以来、世に知られるようになり、その地方知行の記載が驚くほど正確なことも手伝って、一七世紀末の大名を論じる際にしばしば引かれる重要な史料とされ、今日に至っている。ところが、この『土芥寇讎記』は、作者が誰であるということもわかっていないし、どういった編集意図で作成されたのかといったこともまったく分かっていない、謎の書物である。

幕藩領主の史料を求めて日本各地を渉猟していた私には、『土芥寇讎記』が絶好の史料となり得る（いわば宝の山の）ように見えたが、同時に、これを史料として何か言うことの難しさも分かってきた。すなわち、これを史料として利用する以前に、その謎を解き明かす基礎的作業が必要であり、『土芥寇讎記』の内容・表現を綿密に分析し、作者がそれを執筆する上で参考にした書物や、影響を受けた人物等を特定し、作者のいわば思想的基盤を掘り起こしていく研究を行っていかねばならない。こうした地道かつ困難な作業を積み重ねていくことによって、『土芥寇讎記』の作者と編集意図に迫り、『土芥寇讎記』という史料の歴史的位置を探ることができる。そのような基礎的作業を踏まえてはじめて『土芥寇讎記』を史料として利用できるのである。

私は、これまで「忘れられた思想家」安藤昌益の思想的基盤の

掘り起こしや、近世の代表的政道書である『本佐録』『東照宮御遺訓』の思想的基盤の掘り起こし作業に従事することを通して、謎の思想家、謎の書物の歴史的位置を解明する方法を鍛えてきている。『土芥寇讎記』についても、そうした方法を適用することにより、その歴史的位置を探っていきたいと思い、その手始めとして、一橋大学の授業「日本社会史特論」（二〇〇三年度夏学期）でこの書物を取り上げ、半期にわたり、院生・学生らとグループ学習・討論を行ってきた。本書は、院生・学生が取りまとめたレポートからなる。未熟な点は多々あるが、今後の議論のたたき台として活用していただけたらという思いを込めて、冊子体として残しておくこととした。大方の御批判・御叱正をお願いしたい。各班のレポートの取りまとめに際しては特に班長に多大な労力を提供してもらった。また全体の取りまとめについては、博士課程の佐藤宏之君の手を煩わせた。ここに記しておく。なお、本研究の遂行、及び本書の作成には、文部科学省科学研究費・特定領域研究（2）「和漢軍書」出版の思想的研究―日本近世の出版環境と社会変容―による交付金を使用した。

二〇〇四年四月

目次

第一班 『土芥寇讎記』における男色・女色・少年愛

—元禄時代を読み解くひとつの手がかりとして— …… 一

佐藤宏之 (総論) 『土芥寇讎記』における男色・女色・少年愛

—元禄時代を読み解くひとつの手がかりとして— …… 二

第1表 第2表

佐藤宏之 色欲に耽る大名・酷評される大名 …… 九

小田真裕 容認される大名・賞賛される大名 …… 一五

山口直孝 外的要因を受けて評価される大名 …… 一九

第二班 『土芥寇讎記』に求められた君主像

戴文捷 元禄期における文武両道について

—『土芥寇讎記』の作者の視点から— …… 二四

表1 表4

綱川歩美 『土芥寇讎記』の文武両道

—編者像の模索とその周辺— …… 三三

鈴木圭吾 日本社会史特論レポート …… 三九

第三班 『土芥寇讎記』研究

小川和也 (総論) 統一視角と基礎作業 …… 四一

小川和也 個別大名への視角と兵学との関連 …… 四二

—長岡藩主・『東照宮御遺訓』・林家の兵学観— …… 四五

杉岳志 『土芥寇讎記』レポート

—『土芥寇讎記』の作者は誰なのか— …… 五一

表1 表6

藤井尚恵 『土芥寇讎記』成立前史、

及びその作者像に迫る一考察 …… 五九

中瀬智也 「日本社会史特論」を終えて …… 六三

第四班 『土芥寇讎記』における大名像

—「文」「武」をめぐる— …… 六五

小関悠一郎 『土芥寇讎記』における「文」「武」

の関係について …… 六六

表 『土芥寇讎記』引用書目一覧表

木村勲 『土芥寇讎記』と水戸光圀及び『大日本史』編集との

接点

—將軍・綱吉と、副將軍”光圀との関係を基軸に— …… 七四

表1 表2

山田耕太 『土芥寇讎記』を読む 個別レポート …… 八六

天野彩 『土芥寇讎記』と他史料に見える大名像の異同について

の一 考察—備後福山藩水野勝慶、安芸広島藩浅野綱長を事例
に— …… 九〇

日本社会史特論報告記録 …… 九八

参加者(執筆者) 一覧 …… 九九